

誰でも同じ基準で読みやすさが評価できる。 校正の回数も減って業務の効率化を実現。 より伝わりやすい広報紙になりました。

鈴鹿市様では市政広報紙「広報すずか」をリニューアルするにあたって紙面をいかに読みやすくするかに取り組んでおられました。しかし、デザインの専門家ではない市の職員が、各自の感覚で読みやすさを判断する難しさが壁になっていました。そこで「ヨミヤス」を導入したところ、読みやすさの基準が明確になり業務の効率化を実現。導入の効果について、広報グループリーダーの門谷様にお話を伺いました。



業種:自治体

鈴鹿市 政策経営部 情報政策課 広報グループリーダー 門谷 梓央 様

Before 問題点・課題

- 1 市の職員はデザインの専門家ではないため、感覚でしか「読みやすさ」を判断できなかった。
- 2 外部の印刷業者に「文字を大きくして」「もっと読みやすく」という漠然とした指示しか出せず、校正のやり取りの回数が多かった。
- 3 ユニバーサルデザインを学ぶ時間がなく、数年で異動があるため経験やノウハウが継承できない。



After 改善・効果

- 1 ヨミヤスが客観的評価を示してくれるので誰が担当しても同じ基準で読みやすさを評価できる。
- 2 評価基準が明確になったことで判断に迷う時間が減り、業務が効率化。「文字を○ポイントに」と印刷業者への指示も明確になり、校正の回数が減った。
- 3 色覚シミュレーションによって、自分では気付かなかった配色上の課題が見えるようになった。

《ヨミヤスを導入した背景》



デザインの専門家ではないから 感覚的な指示しかできなかった。

「広報すずか」は、70年以上の歴史を持つ市政広報紙です。時代に合わせてリニューアルを重ねながら、市民に行政情報を届けてきました。その「広報すずか」は2026年度から発行形態を変更。月2回だった発行を、月1回に減らしました。

しかし、発行回数が減ったからといって伝えるべき情報が減るわけではありません。これまで月に32ページ相当で発信していた情報を、24ページ程度に集約する必要があります。当然ながら、限られた紙面に情報を詰め込めば読みにくくなる恐れがあります。広報紙は若者から高齢者、色覚特性のある方まで、あらゆる層が対象の媒体です。そして、そこに掲載される情報の中には災害時の避難所やワクチン接種の案内など、市民の生活や安全に関わる重要なものもあります。広報紙の役割は「情報を掲載すること」ではなく「情報を伝えること」。ただ載せるだけではなく読みやすさにも努力すべきなのです。

ところが、それを作る私たち広報グループの職員はデザインの専門家ではありません。紙面デザインは、私たち職員が作ったラフを基に外部の印刷業者がデザインするという流れで作っていますが、デザインを校正確認する際に「何となく読みにくい」と感じることはあっても、どこをどう直せば良いか分からないことがありました。

「文字を大きく」「もっと読みやすく」という感覚的な指示しか出せず、業者側も主観で修正を行います。その結果、修正後の紙面を見ても、本当に改善されたのか判断できないことがありました。校正のやり取りは7～8回に及ぶこともありました。

用途

- 市政広報紙「広報すずか」の作成



《ヨミヤスを導入した理由》



読みやすさの“物差し”が欲しい。
単年度契約なので予算化しやすい。

「読みやすい」「読みにくい」という感覚は人によって異なります。部署内で判断基準を共有することも難しく、ユニバーサルコミュニケーションデザイン(UCD)を学びたくても、日常業務の中でその時間を作るのは容易ではありません。さらに自治体では数年で異動があるため、経験やノウハウを継承していく難しさもありました。

誰が担当しても同じ基準で評価できる“物差し”が欲しい、そう考えていたときに理想科学工業から「ヨミヤス」を提案していただきました。導入にあたっては、単年度契約できる点が助かりました。大規模なシステム投資や複数年契約ではなく、「まずは1年試してみよう」と思い、今年度の導入が実現しました。

《ヨミヤス導入後の効果》



評価基準が標準化され指示も的確に。
校正回数が1～2回減った。

実際に「ヨミヤス」を使って驚いたのは、その手軽さです。PDFファイルを読み込ませるだけで、文字サイズや行間、配色などを分析し、読みやすさの客観的な評価を示してくれます。改善方法も「文字サイズを○ポイントから○ポイントへ」「行間を広げる」など具体的で分かりやすく、感覚で判断していた部分が客観的な指標として見えるようになりました。ユニバーサルデザインに取り組もうとすると業務時間が増えるのではないかと考える人もみえますが、私たちの場合は逆でした。評価基準が明確になったことで迷う時間が減り、業務の標準化が進みました。印刷業者への指示も漠然としたものではなく、「この文字サイズを○ポイントに変更してください」「この部分の行間を広げてください」と具体的に伝えられるようになりました。その結果、以前は7～8回あった校正のやり取りが1～2回減り、作業効率が向上したと感じています。

また、色彩設計機能では、色覚シミュレーションによって色覚特性のある方に紙面がどう見えているかを確認できます。今まで自分では気付かなかった配色上の課題が見えるようになり、より多くの市民に配慮した紙面が作れるようになりました。

私たちにとって「ヨミヤス」は、単なるチェックツールではありません。読みやすさを客観的に判断する共通指標であり、より多くの市民に情報を伝えるための支援ツールです。今後は広報紙だけでなく、チラシやパンフレット、各種案内文書などにも活用し、より多くの市民に伝わる情報発信を目指していきたいと考えています。

UNION PROFILE

鈴鹿市役所 様

〒513-8701 三重県鈴鹿市神戸一丁目18番18号
TEL. 059-382-1100(代表) FAX. 059-382-9040
URL. <https://www.city.suzuka.lg.jp>

三重県北中部に位置する鈴鹿市は、人口約19万人を擁する工業都市。自動車関連産業を中心に製造業が集積する日本有数のものづくり地域。世界最高峰のモータースポーツ「F1日本グランプリ」が開催される鈴鹿サーキットを有することで世界的にも有名。伊勢型紙、鈴鹿墨などの伝統工芸品でも知られる。



主観やセンスに左右されない
「見やすさ・読みやすさ」を自動判定

3つの評価項目で

客観的 & 科学的に

見やすさを判定！

1

情報量

・読み手がストレスを感じない情報量であること

×

○

2

タイポグラフィ

・文字サイズ、行間の幅、行の長さ、文字の形が適切であること

×

○

3

色彩設計

・文字と背景の色が識別しやすいこと
・様々な読み手に配慮した配色であること

×

○

※ヨミヤスは自動で文書を修正するものではありません。

ヨミヤスをこうやって活用しています！



外部の印刷業者から送られてきた紙面デザインのPDFデータを画面上にドラッグ&ドロップ。情報量、タイポグラフィ、色彩設計が自動判定される。



その結果を印刷業者に知らせる。「文字サイズを○ポイントに変更してください」「この部分の行間を広げてください」と具体的に改善点を指示できる。



色覚シミュレーションする機能によって、色覚特性のある人に紙面がどのように見えるのかを確認している。



理想科学工業株式会社 AS事業開発部
本社/〒108-8385 東京都港区芝5-34-7 田町センタービル

〈資料請求・お問い合わせ〉 support@risoservice.com



ヨミヤス公式サイト ▶▶▶▶▶



※この導入事例の記載内容は2026年6月現在のものです。